

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2097419
園名	多摩川幼稚園

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然とあそぶ（森のようちえん活動）

〈テーマの設定理由〉

令和5年度より整備を開始した『たまがわ戸吹の森（森のようちえん活動用雑木林）』において、子どもたちが興味を持った素材を使って主体的に自然と関わり、その中で遊びを楽しんだり、自然について子ども自身で考える力を養いたいと考えたため。

2. 活動スケジュール

6/14『竹ってなに？』

5～6名：子ども・1名：職員のグループになって、生えている竹を触ったり、目の前で切り倒して、竹の中をみたりして、感じたことや意見を出し合う。

6/27『竹を変身させてみよう！①』

7/10『竹を変身させてみよう！②』

9/18『竹を変身させてみよう！③』

子どもたちの意見やアイデアから楽器やおもちゃを作ることで、竹の素材に触れ、自然物の不思議さやおもしろさを感じる。また、その感情を友達と共有し、相互理解を深める。

3. 環境設定について

〈環境設定〉

・安全管理のため、竹林の子どもが安全に活動できる範囲をロープで区切る。

〈素材・道具〉

・軍手 ・のこぎり ・ロープ ・きり ・ブルーシート 等

4. 活動内容や子どもの姿や人との関わりについて

6/14『竹ってなに?』

空高く伸びた竹を見て太さの違いや色の濃淡、葉が付いていることなど、それぞれの疑問を友達や保育者と共有していた。また、子どもたちの前で生えている竹をのこぎりで切り落とすところを見せると大興奮だった。切った竹を縦に割ってみることで、節で中が仕切られていることや、色が違うことに気が付き、それぞれ思い思いの意見を述べていた。

6/27『竹を楽器にしてみよう①』

竹を叩いてみるといい音が鳴り、さらに竹の太さで音が変わることに気がつく。そこから細く切った竹を職員が用意すると、太鼓のように叩いて遊んでいた。一人が歌いながらリズムを刻むように叩き始めると、それに呼応するように演奏が広がっていった。子どもたちが楽器を気に入ったため、竹を森の中のステージに運び、発表した。

7/10『竹を楽器にしてみよう②』

他の楽器に変化させられないかを、子どもたちと調べてみると笛になることを知る。そこから作成に取り組むが、思っていたように音が鳴らず、諦めてしまう子もいた。吹き方を変えたり、部品を変えたりしてみるが、うまく鳴る子と鳴らない子がいたことから、次はみんなが楽しめるものがないという声上がる。

9/18『おもちゃを作ってみよう』

前回の反省を生かして、竹の楽器ではなくおもちゃを作ろうというアイデアが出る。材料になるようなちょうどいい太さの竹を子どもたちが選び、切ったり穴を開けたりして、思い思いにおもちゃを作りあげた。竹ぽっくりやボーリング、竹の切れ端でのおままごとなど、自由な発想で楽しんでいた。

活動中の写真



4. 振り返り

園外活動としてよく利用する竹林。今までは子どもたちが自由に遊ぶことが多かったが、繰り返し“竹”という素材に関わることで、子どもたちの新たな一面を見ることができた。特に、子ども同士でそれぞれ感じたことを言葉にしたときに、素直に共感したり、不思議に思ったことを一緒に考えたりする姿に成長を感じた。また、活動の時間外でも竹に興味を持ち、身近なもの（竹割りばし・カゴ）に竹が使用されていることに自ら気が付くなど、時間をかけて取り組んだことで“竹”に継続的に関心を持つ姿が見られた。